

(様式2)

平成 28 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1572500252		
法人名	クラレテクノ株式会社		
事業所名	グループホームちゅーりっぷ苑・つばき		
所在地	新潟県胎内市協和町1831-1		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年2月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心と誇りが持てる生活作り」という理念のもとに、入居者それぞれが、その人のペースで安心して暮らしていくためには、今、私たちは何をしなければいけないのかを常に模索しながらケアに取り組んでいます。介護方針である“尊厳を守る介護”“個人の生活習慣の尊重”“食事・排泄・入浴介護の充実”の具体的な実践を、日々、職員間で意見交換しながら、その人ができることを大事にしながら日常生活の支援をしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、多角的な事業で全国展開している会社の、新潟事業所の広大な敷地内に位置している。全国の関連会社や事業所の中でも介護事業を展開しているのは新潟事業所だけであり、企業として地域に貢献したいという思いから始まっている。後に、同じ敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所や2つ目のグループホームを開設し、事業所同士一体となって運営が行われている。

福祉事業所も含めて新潟事業所全体がひとつのコミュニティとなっており、職員は会社主催の安全教育に参加したり、災害時には会社の自衛消防団が消防車で駆けつけてくれる体制が整っていたり、事業所で行う夏祭りや秋祭りには社宅に入居している社員が家族で参加したりと相互に交流が持たれている。また、毎年地域にある他法人のグループホームと合同で会社の体育館を借用して利用者運動会を開催し、楽しい時間を過ごしている。

管理者・職員は、事業所の理念である「安心と誇りが持てる生活づくり」を常に心の拠り所とし、より具体的な介護方針に沿って利用者本位の支援を実践している。また、家族や利用者の様々な意向や要望に対し、どうすれば実現可能かを事業所全体の課題として取り組んでいる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解・共有はしているが、日々実践となると努力が必要なところもある。	開設時から継続している理念を礎として、より具体的な内容の介護方針に基づいたケアを実践している。現状に満足することなく、問題点や工夫できるところを常に利用者本位に模索している。理念は、職員にとっても心の拠り所となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各行事・認知症カフェなどへの参加等、定期的には交流をもっているが、入居者像の変化から日常的に出かけることが難しくなっている。	周辺には民家が少なく、会社の敷地内だけで一つのコミュニティーが形成されている。社宅の社員の子どもたちが多く、事業所で行う夏祭りや秋祭りには大勢の家族連れが訪れている。他法人のグループホームと毎年合同で運動会を行ったり、精神障害者施設の利用者にボランティアをお願いしたり、また、地域の作品展や認知症カフェには積極的に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座講師やセンター方式地域基礎研修の開催等、副苑長を中心に認知症介護の理解促進に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営報告だけでなく活動内容についても積極的に報告し意見をいただいている。また、その内容は運営に反映している。	家族代表、市の福祉課参事、地域包括支援センター職員、病院ケースワーカー、近隣のこども園の園長、親会社の所長などの参加で、様々な情報の共有や意見交換が行われている。会議での指摘から職員の顔と名前が分かるように玄関に貼り出すように改善した例もある。また、親会社は化学製品の企業であることから、所長は事業所内の整理整頓や防災に関して厳しい視点を持っており、それが運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に市の職員にも出席していただき、何かあれば話を聞いていただいている。月1回は介護相談員の訪問もありケアの様子を見ていただいているほか、職員ともその都度、意見交換できている。	運営推進会議には市福祉課の参事が参加しており、行政の立場からの意見をもらっている。日常のやりとりについては介護保険課担当者で行っている。また、毎月訪れる介護相談員を通じて市と連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で理解し拘束のないケアに取り組み、自由に出入りできる環境作りをしている。また言葉の拘束についても職員間で意見交換しながら取り組んでいる。	玄関の出入りはセンサーマットの音で察知しているが、利用者の外に出たいと思う気持ちは抑制せずに可能な限り職員が付き添って対応している。言葉かけで不適切な場面が見受けられる場合は、職員同士でお互いに指摘しあう環境が出来ており、その都度改善している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部の研修を通じて虐待防止法への理解を深めている。また、日々のケアも職員間で声を掛け合いながら虐待のないケアが実践できている。	管理者は現場での職員の様子を見ながら、変わったことがあれば個別に話しを聞くなどの気配りを心掛けている。親会社全体ではストレスチェックが実施されており、各職員にフィードバックされている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援が必要な入居者へは制度の利用を検討している。外部の研修があれば参加しているが、全職員が理解しているとはいえないので、内部研修を通して理解が深められるように工夫が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には十分に話し合いの時間を設け契約している。不安・疑問があればその都度、対応し理解・納得して利用してもらえるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉に耳を傾け安心して暮らせるように努めている。ご家族とも面会時に何でも話していただけるような関係作りに努めているほか、アンケートを実施し運営に活かしている。	定期的に家族宛の満足度調査を行っている。集計結果から、職員の異動が伝わっていないという意見を把握し、広報誌で知らせよう改善につながった例もある。利用者からは日々の関わりの中で傾聴した内容について、個別の申し送りノートに記載し共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を実施して、運営にいかせるように努力している。	「テクノふれあい会」という会社の扶助組織があり、年2回の合同の会議で職員の福利厚生や待遇面での具体的な話し合いを行い改善されたケースもある。また、年に1回程度、管理者や親会社の所長、副苑長等と個別面談の機会があり、職員が意見や要望を表出できる場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通して職員が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は充実しており、個々の職員の力量を把握できている。外部研修への参加は依然として難しい状況にあるが、どの職員も参加できるように努力していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し研修や情報交換の機会にしている。地域では交流も兼ねた運動会を毎年、実施している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っていることを本人が話しやすいように声のトーンは口調の配慮をするなどして、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居当初の面会時等に家族が話しやすいように積極的にコミュニケーションをとるなどの努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要なサービスを事業所で提供できるかどうかも含めてよく相談している。他のサービスが必要になった場合には他機関と連携をとりながら調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること・したいことを日々の会話から汲み取る努力をし一緒に作業する中で暮らしを共にする関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族への手紙を通して生活の様子を伝えたり、相談することで一緒に本人を支えていく関係を築いている。また、行事等にも参加してもらい本人と家族と一緒に過ごす時間も大切にしている。	家族には、2ヶ月に1回事業所での利用者の様子や健康状態などを手紙で知らせるほか、定期的な電話や面会時にも利用者の様子を伝えている。「家族と過ごす時間を作る」を介護計画に位置付けて支援することで、状態が落ち着いている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の話からこれまでの生活で大切にしてきたものや馴染みの関係[美容室や買い物等]が途切れないように努力しているが、個人差があり、今後も努力していきたい。	行きつけの美容院に継続して行けるよう支援している。また、入居して昔からの馴染みの方と再会した人や、併設の小規模多機能型居宅介護事業所を利用している知人と出会った人などがおり、一緒に過ごせるように配慮するなど、馴染みの場所や人との関わりが途切れないように可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し食事や普段過ごす席の配慮をしている。また、共通の話題を提供したり職員が間に入ることで関係性を持てたり、入居者同士で興味を持ち合うことができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移る場合には詳細な情報の提供を心がけ、生活の継続性を大切に支援している。入院中もお見舞いに出向くなどしてこれまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からや家族からなど意向の把握に努めている。思いを伝えられない人に対しても同様に工夫しているほか、カンファレンス等で話し合い、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントシート一式を使用し、きめ細かなニーズの掘り起こしを行っている。新たに聴き取った内容はシートに追記していき、介護計画の更新時に再アセスメントを行っている。思いや意向については可能な限り実現できるよう本人本位に検討している。	介護計画作成への関わりについて家族に意向を確認している。可能な限り関わりたいとの意向の家族にはカンファレンスへの参加を働きかけ、共に利用者のその時々思いや意向を確認することを望みたい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりや家族からの情報をもとに本人の生活スタイルの把握に努め、その継続のためにどのような支援が必要か検討しながら支援している。	入居前の面談の際に聴き取りを行い、把握に努めている。入居後も日々の生活の中で知り得た情報は、申し送りノートやアセスメントシートに追記していき、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やアセスメントを通して一人一人の生活リズムを職員間で共有できている。また、本人のできること、分かることも共有できるようカンファレンスで情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した計画書を作成できるように意向の確認やアセスメントはもちろん、カンファレンスでもアイデアを出し合っている他、月1回のモニタリングで見直しをしている。	介護計画は1年ごとの更新を基本とし、毎月、内容についてのモニタリングを行っている。現状に即した計画となるよう実施状況の評価も行っている。利用者本人の思いや意向を重視し、実現に向けた計画作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	暮らしぶりを記録するとともに重要なことは個別で申し送りをするなどして入居者の状態を職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フォーマル・インフォーマルな支援、本人・家族が必要としている支援やサービスが提供できるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら豊かな生活が送れるように努力はしているが、不十分であり努力が必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してからもこれまでのかかりつけ医に診てもらっている。対応は家族にお願いしているが状態を報告をするなど適切な医療が受けられるようにしている。	これまでのかかりつけ医の継続を支援しているが、利便性を考え事業所に往診してくれる協力医院に切り替える方が多くなっている。基本は家族に受診付き添いをお願いしているが、難しい場合は職員が対応している。医療機関へは事前に電話で状態を報告したり、書面を持参して情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の小規模多機能の看護師を併任として配置し、日々の健康管理や医療面で相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ生活状況などの情報提供をしている。また、退院後、スムーズに生活が始められるように看護師やMSWと連絡を取り合い、支援の方向を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に家族に終末の過ごし方について話をしている。また、早い段階で本人・家族の意向を確認できるように努めている他、その時その時で変わる気持ちにも配慮している。事業所のできることを説明する他、医師やサービス関係者も含めたカンファを行い、チームで支援に取り組んでいる。	入居の際に重度化や終末期についての本人や家族の意向を確認するとともに、事業所として出来ること・出来ないことを説明している。対応が必要となった段階で、急変時同意書、看取り支援確認書を取り交わすと同時に、医師、看護師、事業所、家族とで十分に話し合いを行い方針を共有している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを整備しているが定期的な訓練が必要と考える。	マニュアルをしっかりと整備して有事に備えている。また、急変や事故のケースごとにフローチャートも用意して、職員が適切な対応をとれる体制が出来ている。消防署で行われる救急救命法の研修には全職員が交替で受講している。	急変や事故についての対応をケースごとに細かくマニュアル化している。今後は、そのマニュアルを基にシミュレーションや勉強会を重ねることにより、職員の実践力アップにつなげていくことを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを整備し対応している。防火管理者、火元責任者を中心に避難訓練を行い、その際は近隣の社員寮の協力も得られる体制である。	年に2回、消防署の立会いのもとで避難訓練を実施している。夜間の火災や地震などを想定した訓練には社宅に暮らす社員も参加している。親会社には自衛消防団が組織されており、有事の際は消防車が出勤して救援に来てくれる体制となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に沿い、入居者本人を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	「一人ひとりの尊重」は事業所の理念にも掲げており、特に力を入れて対応している。管理者は、職員個々へ対応一つで利用者が不安になったり落ち着かなくなることの気付きを促し、利用者が誇りと尊厳を持って生活することを支援するという自覚を持つよう伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような関わりを工夫している。気持ちを伝えることが難しい人にもわかり易い説明を心がけ選択してもらえるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調にも配慮しながら1人1人のペースで生活出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自らが整容できるように配慮している。着る服も自分で選んでもらう他、それが難しい人には職員が聞くなどしておしゃれを楽しめるように努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いにも配慮し食事を提供している。また3食のメニューを書き出し話題としたりしている。下膳や食器拭きなど出来る人にはお願いし共に片付けをしている。	メニューに応じた食材を配達してもらっているが、利用者個々の嗜好や食事形態に合わせて臨機応変に調理を行っており、庭の畑で収穫した野菜の料理をメニューに加えることもある。食事の下ごしらえから盛り付け、食器洗いまで利用者の力を借りながら行っている。食器は利用者個々の使い慣れた物を使用し、家庭的な雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きちんと栄養が摂れるよう食形態も個々の状態の合ったものにしていく。また水分も好みのもを提供するなどして、不足しないような努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力にあった支援を行い、口腔内の清潔が保たれるように努力している。また、必要な人には訪問歯科診療のサービスにつなげたり、家族と相談しながら支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努めトイレで排泄できるように支援している。また、紙パンツから布パンツへの切り替えが出来そうな人には職員同士で話しあいながら実践している。	排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄パターンの把握に努めている。平成27年度の親会社の業務発表会では「トイレの充実」をテーマに掲げ、可能な限りトイレでの排泄を促す取り組みを行った。その結果、利用者の自立支援につながり、また、職員の排泄に関する意識の変化が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る範囲で体を動かすことや水分摂取量も不足しないように心がけてはいるが薬に頼ることも多く、生活リズムの見直し等が今後、必要と考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や気分を大切に、無理強いないで本人のペースで入浴してもらうことができる。	利用者個々の意向を確認し、可能な限り希望に沿った入浴ができるよう支援している。入浴時間も特に決めず利用者のタイミングで入ってもらっている。年に1回は温泉旅行に出掛け、大きなお風呂で職員と一緒に入浴する楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調にあわせ休息できるよう支援できている。また、気持ちよい眠りのために希望のある人には就寝前に入浴してもらうなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で作用・副作用をいつでも確認できるようにしている。薬が変更になった際は申し送りやカンファで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で家事作業をそれぞれでお願いしている。また外食や買い物等、ケアプランに組み込み楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の計画をたて実施しているがその日の気分によってというところまでは実施できていない。その時の気分で散歩にはその都度、職員付き添いのもと出かけている。日常的な外出については職員体制にもよるが工夫が必要である。	天気の良い日はドライブに出かけたり、事業所周辺を散歩しており、また、季節ごとの花見や温泉旅行、地域のグループホーム合同で行う運動会など外出の機会が多い。個別のニーズに対しては、しっかりと介護計画に位置づけて外出が実現できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて家族とも相談しながら、出来る方にはお金を所持していただいている。基本的には苑で管理し、必要なときに使用している。出納帳をコピーし家族に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話で本人の希望に応じ電話をかけたり、家族等からの電話は取り次ぎを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように掲示物を工夫したり、室温に配慮し心地よく生活できるように配慮している。整理整頓・清潔の保持ができるように努力している。	食堂ホールには十分に陽光が射し込み、日中は電灯がなくても明るい。窓から見える中庭には季節ごとに畑の野菜や花壇の花が目を楽しませてくれる。随所に季節ごとの装飾品や外出時の写真などがたくさん飾られている。リビングの一角にはソファが置かれ、利用者が寛いでテレビを見ることが出来るスペースとなっている。リビングからトイレが見えないよう布で遮る工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場であってもそれぞれの気に入った場所で過ごせるように配慮している。また入居者同士の相性も配慮し食事の席など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の動線に配慮し家具等の配置を決めている。また、本人・家族と相談し使い慣れたものを持ってきていただいたり、家族の写真などを飾っている。	居室には、位牌、化粧道具、鉢植えなど利用者それぞれが思い思いの馴染みの物を持ち込んでいる。居室づくりは本人、家族と相談しながら、安全面にも配慮しつつ快適に過ごせるよう取り組んでいる。鍵のある居室も用意されており、鍵をかけて夜安心して眠る利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心がけ、できるだけ本人の力を活かせる環境作りをしている。手すりなどの福祉用具を使用し、安全と自立支援のバランスを取るよう心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				